

9月16日(水)

## 花巻北高校創立90周年記念事業「100年の学び講演会」

講師：荒川祐二氏（作家）

「半ケツとゴミ拾い〜一步を踏み出す勇気〜」という題で荒川さんにご講演いただきました。



自分の体験を基に、一步を踏み出す勇気の大切さを伝えてもらいました。

生徒からも多くの質問がでるなど、有意義な講演会となりました。



## 花巻北高校90周年記念事業「100年の学び」講演会

### 生徒の感想

自分だったら嫌がらせを受けた時点で辞めている。しかし今回のお話で、ギブアップしないことで周囲が変化することがあるという実際の例を聞き、嫌なことがあっても続けられるくらい自分や世の中にとって好影響を与えると自分で心から信じられることを続けることが大事だと感じた。自分が変われば周囲が変わってくる、というお話も大変心に残った。周囲を気にせず自分のために取り組むことに挑戦したいと思った。

講演会で「変わると言った時点ではまだ変わっていないのに変わった気になってしまっている」という荒川さんの言葉を聞いた時とてもハッとさせられました。思えば、明日から頑張ろうと思ってできていないこと、朝の早起きやご飯後の仮眠など、やめよう、変わろうと思ってもやっぱり変われなくて落ち込むことがよくあることに気づきました。きっとその原因には、自分に対しての甘えだけでなく、変わると言ったことで変わった気になっていることもあるのだと感じました。今日の講演会を聞いて思ったこと、一步を踏み出したいと思った心を大切に、新しい自分に出会えるよう頑張っていきたいと思います。

自分が嫌いなのが自分だけでは無いということ、変わりたいと思って行動すれば本当に変わることが出来ること。今まで自分は変わりたいと思っていたし、実際行動もしてみた。が、自分が思い描いたようには変わっていない。それは、荒川さんのお兄さんの言葉どうりやったつもりになってるだけだったと気づかされた。たった、数回だけやって、継続しないのはその表れだと思う。でもそれは、自分に自信がなくて他人にバカにされるのが嫌だったから途中で投げ出したのだと言うこともわかった。○○さんだから、あいつだから、と言うのはただ逃げてるだけで、その人の努力を無視した失礼なことだったんだな、と今更知った。自分はやりたい目標は主に3つある。しかし、それに才能がないのではないか、自分より上手い人がどれだけいるんだろうとか、考えてしまっていたが、自分に自信持って、他人はどうせ他人。自分の足を引っ張るだけだと割り切って行動し続けることが出来る、勇気と根性を身につけたい。

私は、今回の講演会まで荒川さんのことを知りませんでした。しかし、5月3日に全国で取り組みをしている人だと知ってとても驚きました。ごみ拾いは、誰にでもできて、誰にでもできないことだと私は話をきいて感じました。なぜなら、自分を変えようという決意からまずごみ拾いという発想がでてくるのがすごいですし、ごみの量がとても多い場所を一人できれいにし始めることは、行為自体は誰にでもできますが義務でもなく自分の意志だけでやることはとても難しいと思うからです。私は、この講演をきいて今から自分ができることはなんだろうと考えてみました。しかし、荒川さんのように毎朝ごみ拾いができるかといったらなにか理由をつけて、長く続けられないでしょう。その他のことも考えてみましたが、なかなか思いつきませんでした。そこで、今与えられているやるべきこと、勉強をまず頑張ろうと思いました。そして、何かやりたいことが見つかったときのツールを増やしていこうと思います。いつも、計画や目標をたてて終わってしまうことが多いので、有言実行できるようにします。

印象に残っていることは、講演中に何度も聞いた「人はやれないんじゃないやっていないんだ。」という言葉です。荒川さんはごみ拾いをするだけで注目を集め最終的には15万人もの人が参加するごみ拾いにまで発展しました。誰でもできることでもこんなに大きなものになることに驚きました。僕は何か物事に取り組むときには自信がないことが多々あるのですが、荒川さんの話を聞いて、絶対にやれると自分を信じて取り組んでいきます。

ゴミを拾うのは簡単なことですが、それを継続する力はすごいなと思いました。継続は力なりということわざにもある通り、続けることの重要性、たゆまず、くじけずに続けることの大切さを学びました。私はまだまだ、将来こうなりたいというのが定まっていないので、沢山の失敗とそれに相当するくらいの経験を積んで、少しずつ成長していきたいなと思いました。